

平成28年度大学質保証フォーラム

Revisiting Subjects, Verbs
and Objects of Quality Assurance

質保証、だれが 何をどうするか

平成28年 8月5日(金)

13:00 - 17:30 一橋講堂 受付12:00開始



基調講演

John N. HAWKINS

UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) 名誉教授

Padraig WALSH

ENQA(欧州高等教育質保証協会)会長
QQI (アイルランド質保証・資格機構)機構長

パネルディスカッション

John N. HAWKINS

Padraig WALSH

神田 雄一

東洋大学 副学長

松尾 太加志

北九州市立大学 副学長

皆本 晃弥

佐賀大学 大学院工学系研究科 教授

山田 礼子

同志社大学 社会学部 教授

武市 正人

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部長

森 利枝 (モデレーター)

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構

質保証、だれが 何をどうするか



基調講演

John N. HAWKINS

UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) 名誉教授

Padraig WALSH

ENQA(欧州高等教育質保証協会)会長
QQI (アイルランド質保証・資格機構)機構長

パネルディスカッション

John N. HAWKINS

Padraig WALSH

神田 雄一

東洋大学 副学長

松尾 太加志

北九州市立大学 副学長

皆本 晃弥

佐賀大学 大学院工学系研究科 教授

山田 礼子

同志社大学 社会学部 教授

武市 正人

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部長

森 利枝 (モデレーター)

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授

大学の自己点検・評価が大学設置基準に基づく努力義務とされてから既に四半世紀が経過しようとしています。この間、わが国の高等教育の質保証を取り巻く環境は大きく変わりました。大学のユニバーサル化が進行するなかで、大学の自己点検・評価は結果の公表を含めて学校教育法に規定する義務とされました。また、相前後して導入された認証評価制度においては、大学自身による自己評価を基盤とした外部評価が行われています。このように、大学に自己評価を促す外部からの働きかけが続いたことによって、みずからの質をみずからの手で保証するという質保証の「主体」としての大学の役割は、むしろ見えにくいものになってきたようにも思われます。

そこで、今回の大学質保証フォーラムでは、質保証の「主体」である大学の役割にあらためて注目し、大学の教育研究という「目的」のために、学生や関係者に対して大学のとるべき「行動」について考えます。さらに、質保証機関を「主体」として、大学による質保証を支援するという「目的」のために、何に対してどのように「行動」すべきであるのかを問い直すことを試みます。そのうえで、大学みずからによるいわゆる内部質保証と、質保証機関による第三者評価の有機的な組み合わせ方について、国内外での事例をもとに議論を深めます。

主催：独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構

後援：公益財団法人 大学基準協会 | 公益財団法人 日本高等教育評価機構 | 一般財団法人 短期大学基準協会 | 認証評価機関連絡協議会

平成28年8月5日(金) 13:00 - 17:30 一橋講堂
受付12:00開始

入場無料

日英同時通訳付き

一橋講堂

101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2F

- 東京メトロ東西線 「竹橋」駅1B出口 徒歩4分
- 東京メトロ半蔵門線 ○ 都営新宿線・三田線 「神保町」駅A9出口 徒歩4分

